

1 自己評価及び第三者評価結果 (せせらぎ)

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2873400762		
法人名	社会福祉法人 宝寿会		
事業所名	グループホームゆうゆう		
所在地	兵庫県神埼郡神河町福本字中茶屋山1241-3		
自己評価作成日	平成30年5月15日	評価結果市町村受理日	平成30年7月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉市民ネット・川西		
所在地	兵庫県川西市中央町8-8-104		
訪問調査日	平成30年5月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・自然の中で、四季の移り変わりが感じられる、静かな環境に恵まれている。 ・地域のボランティアによる、歌唱・リハビリ体操・紙芝居・映画上映等、交流している。 ・入居者の誕生日に、誕生会を行い、好みの食事やケーキで祝いをしている。 ・併設特養との交流や行事参加がある。 ・食事の献立は職員が作成し、食材の買い物を二日ごとに行っている。 ・季節を感じる献立を工夫し、地域で穫れた野菜・果物を使うようにしている。 ・訪問看護との連携で、健康チェック及び、体調の変化対応できるようにしている。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>母体の法人は、隣接して従来型とユニット型の特別養護老人ホーム、デイサービス、及び居宅介護支援事業所を運営しており、地域の貴重な社会資源となっている。事業所は開設後13年を経ているが、管理者と職員の努力、そして家族の協力によって建物の内外ともに、程好いセンスが感じられる。利用者が若い頃に描いた絵画、家族が定期的に持ち込んで玄関を飾る見事な写真、季節感あふれる利用者の作品などが、来訪者の目を楽しませてくれる。エプロン掛けで食後の片づけを行っている利用者は、職員かと思間違えるほど生き生きとした表情で共同生活を楽しんでいる。限られた職員数であるが、数か月前にバージョンアップしたPCシステムを早い時期にマスターし、業務改善に繋がられるよう期待したい。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および第三者評価結果

H29年度(せせらぎ)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「入居者が職員と共に楽しみを持ち、自分らしく暮らせるホームを目指します」という理念を常に意識し、施設長・職員と共有し、日々の業務に取り組んでいる。	法人の理念「おもいやり 安心安全 やすらぎ」と、事業所としての理念をパンフレットに記載して対外発信している。簡単で分かり易い内容であり、職員に周知徹底できている。事業所とユニット毎の年間支援目標を設定しており、年度末に達成度を振り返っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町の文化祭に、手作りの作品を出品し、見学する事が出来た。 町内の小学校・中学校・高校の訪問があり、交流を図る事も出来た。	年間支援目標に沿って、習字などの作品を地域の文化祭に出展した。毎年恒例として、小学生が訪問して利用者と一緒に簡単なゲームを楽しんだり歌を歌い、高校生が授業の一環で車椅子介助や使用の体験を行った。高校生を対象とした認知症サポーター養成講座を、事業所内で開催している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の事業所有志で「地域サロンらくや」を立ち上げている。職員が一員となり活動している。 数名の入居者も参加され、地域の方・認知症の方と交流が出来ている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には、家族様に出席して頂き、意見交換が出来る時間を設けている。 家族様からの要望・意見には、耳を傾け、応じる様に努めている。	年3回、隣接する地域密着型事業所と合同で開催している。複数の家族、地区代表、町の担当課、地域包括、民生委員が出席している。家族から外出機会を増やして欲しい要望があり、利用者の状況に応じて出来るだけ対応するようにしている。懸案の議事録の送付が実現できていない。	議事録を町の担当課に毎回持参することで関係性を密にし、又、全家族に送付することを引き続き検討して頂きたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には、町担当者に出席をお願いしている。困り事の相談については、適切なアドバイスを受けている。	運営推進会議で、年に1度は事業所内を案内している。地域の福祉事業所の職員有志で作っている「楽護会」で、毎月勉強会を開催し、介護技術の向上や職員の身体的負荷の軽減方法などを学んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入居者に対する声かけ・普段行っているケアについて、その都度話し合いを設けている。 玄関の施錠については、玄関横の坂道が急で危険である為、安全を優先に考えた上で、施錠はしている。	かつて、退院直後の一時期に転倒防止策としてセンサーマットを使用していたことがあった。センサーが反応した際には拘束にならないように気を付けて対応するように指導した。使用開始や継続するに当たって検討した内容の記録や、家族への説明・同意書の書式化が出来ていない。	止むを得ず、身体拘束に該当する器具を使用する場合の検討内容や、家族への説明と同意を記録する書式の作成が望まれる。

自己	者第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入居者の身体状況の変化については、その都度職員間で話合う機会・時間を設けている。職員研修で、虐待について学ぶ機会がある。	身体拘束排除と共に毎年研修を行って職員に周知している。利用者の安全を重視するあまり行動を制限するような言動は、心理的虐待に該当することとして、他の適切な方法をケア会議などで検討している。	
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前、該当する入居者があり、包括支援センターに相談したが、活用には、至らなかった。	成年後見や生活保護など、制度を利用している利用者はいない。成年後見制度について、簡単な概説資料を数部準備しているが、契約時に説明したことはない。	先ず概説書で学び、契約時に家族に紹介して渡せるよう、資料を準備されたらどうだろうか。
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に於いて、サービス内容に関する説明を十分に行い、不明な点や不安・疑問に思う事がないかを尋ね、理解及び納得を得ている。	契約前に見学をする場合が多く、数回見学した後に入居に至った例もある。特別養護老人ホームへの入居も同時に検討している家族には、費用面の違いを説明して誤解が生じないようにし、確定申告に於けるオムツなどの消耗品の購入費の扱いなどの質問にも応えている。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議には、家族に出席して頂き、意見交換を行っている。入居者、家族の要望や意見に対応出来るよう努めている。	隣接する事業所の多くの利用者と職員がインフルエンザに罹患した際には、事業所内に感染者が出ないように万全の対策を採り、家族などの訪問者にも協力を呼び掛けた。家族からの要望も有り、対策に関する情報共有方法を検討して、次のシーズンに備えたいと管理者は考えている。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のホーム会議で、職員の意見や提案が出来る時間を設けている。日々の業務に於いての改良・改善、提案の話が出来る様にしている。	毎月、ユニット会議とホーム会議の場で職員の意見を聴いている。運営面では誤薬防止策などを検討した。毎月家族に送っている利用者ごとのお便りに、文字情報が多かったので、簡単なコメントとバイタル値の他に日々の様子をカラーのスナップ写真にして読み易くした。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年1回、自己評価による反省、目標をあげている。人事考課により、職員の努力を評価している。パート職員への日曜手当・残業手当の支給・年末年始手当・処遇改善手当の支給をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	採用後における新人研修の実施。月1回の職員研修や外部研修の機会を設けている。毎月、特養に於いて、スキルアップ研修を実施している。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14			○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域事業所の有志で立ち上げた「楽護会」での勉強会に参加し、他事業所の職員との交流が継続出来ている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15			○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ケアマネージャーからの情報提供やフェースシートを基に事前面談やホームへの見学によって安心して頂けるよう努めている。		
16			○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族と事前面談を行い家族の立場になって不安要望等の気持ちを受け止め本人家族双方の思いに耳を傾けながら信頼関係を築けるように努めている。		
17			○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ケアマネージャーがいる場合は連絡を取りながら併設特養の申し込みも含め必要としている支援を見極めるようにしている。		
18			○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者が昔から培ってきた知恵や経験を教わりコミュニケーションを図りながらそれを活かした支援を心がけている。		
19			○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は家族の思いや本人の気持ちを受け止めながら出来るだけ楽し時間がもてるよう、心がけている。特養主催のふれあい祭りなどにも家族参加をお願いしている。		
20	(11)		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	月一度昔仕事仲間であった友人と食事会をされ送迎を行っている。また、馴染みのあるスーパーへの買い物の支援をしている。一時帰宅や外泊も支援している	遠隔地の家族を除けば、平均して毎月1度は家族の来訪がある。地域の老人会の会員として、花見や敬老会の催し物に職員が付き添ったり家族の協力を得て参加している利用者もある。定期的に訪問する地域のボランティアが、習字、体操、紙芝居、映写会、DVD鑑賞などを通じて馴染みとなっている。	

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21			○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	介護を特に必要とする入居者に対し、思いやりをもち手助けをする気持ちを大切にしながら、それが自分自身の支えとなるよう支援する。また、入居者同士の関係が悪化しないよう努めている。		
22			○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	特養へ移られたり、病気が重度化し入院をされた場合お見舞いや面会を通じて様子や状態を聞いている。又、職員同士ケアについても話し合っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(12)		○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活歴を念頭に個々のケアに努めている。その人の能力にあった仕事を毎日の生活の中で行ったりその人が興味を示されることに支援している。コミュニケーションが取れない時はユマニチュード技法によりスキンシップを図っている。	コミュニケーションが難しくなった利用者が数名いる。元気だった頃の状況やアルバムの写真、家族の来訪時に得た情報などを、引継ぎ帳やケース記録に記載して情報共有している。研修でユマニチュードを学び、コミュニケーションに活かしている職員もいる。	
24			○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家人や担当のケアマネより生活情報を取り入れながらホームでの生活の様子を見て情報の共有に努めている。又入居者に寄り添い会話をする中で馴染んだ暮らし方の情報を得ている。		
25			○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活動作記録、パソコン入力によるケース記録、引継ぎ帳また、職員同士口頭での引継ぎ等で入居者の状態の把握に努めている。		
26	(13)		○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者自身の希望を優先し、出来るだけ実現可能な計画になる様、ケア会議を行っている。自己決定が出来ない入居者には日常の様子観察を行い、家族とも話し合いながら計画を立てよう努めている。	全職員がユニット内の全利用者のケアを担当している。基本、半年毎にケアマネが中心となって介護計画を作成している。各ユニットで開催するケア会議で利用者の状態を話し合っており、モニタリングと担当者会議の役目を果たしているが、計画で策定されたサービス内容と必ずしも連動した内容や記録になっていない。	PCシステムがバージョンアップして、未だ数か月であるが、ケース記録を入力する画面の「ケアプラン連結機能」や、モニタリング入力機能を早く習得し、業務改善されるようお薦めしたい。
27			○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常生活動作記録を基本に個人記録としてパソコンに入力している。特記事項や重要項目は引継ぎ長にも記入し口頭でも伝えあい日中、夜間時の記録様子等も把握するよう努めている。		

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族より希望があれば入居者の居室に宿泊したり食事でもできるようにしている。また外出や食事、外泊等、その時に応じた支援に努めている。併設特養の行事にも参加し交流を図っている。		
29	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎月一度の習字教室の作品を町の文化祭に出展している。又二か月に一度の健康懐メロ教室、若菜会の紙芝居や手品、リズム体操、映画鑑賞等を継続して楽しんでいる。		
30	(14) ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前から受診されていたかかりつけ医や協力病院を受診されている。家族が受診に同行出来ない時は職員が同行し対応している。	利用者は入居前のかかりつけ医を続けて受診しており、家族の協力も得ている。緊急時には職員が付き添い、車椅子の送迎も支援している。平常時は、週1回、訪問看護師の健康チェックを実施しており、個別に受診記録や訪問看護記録ノートを作り、家族との情報の共有を可能にしている。	
31	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に一度看護師の訪問で身体の様子を伝え処置が必要であれば対応してもらっている。緊急時に於ける対応等のアドバイスも受けている。		
32	(15) ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関に本人に関する情報を提供している。面会を通じて入院中の病状経過等を把握している。退院前カンファレンスに参加、地域連携室との関係づくりに努めている。	普段から、地域の総合病院主催のオープンカンファレンスで関係づくりに努めており、本人に関する情報は地域連携室を通して提供するように指示されている。今年度は入院が数名あり、骨折して車いす利用となったが、退院後事業所への受け入れ態勢を整えて戻った事例もあった。	
33	(16) ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合において終末期を何処で迎えるか意向を伺っている。ご本人の判断が困難な場合はご家族と本人本位で話し合っている。	重度化に関する事業所の指針を契約時に説明し、利用者家族の意向を段階を追って確認している。指針については、事業所の出来る事出来ない事を明記することが、今後の課題となっている。利用者家族の想いは変化するので、随時の意向の確認書、同意書なども必要であると管理者は考えている。	
34	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応は職員研修、スキルアップ研修で応急手当の訓練を行っている。又、担当職員より急変時の対応、対処についての引継ぎを受けている。		

自己	者 第 三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	併設特養と合同で昼間、夜間想定で消防避難訓練を行っている。又、災害時の食事も体験した。水害、土砂災害を想定した避難訓練を行う必要がある。	隣接事業所と合同で、今年度は夜間想定避難訓練を1回のみ実施した。降雨量が多い場合裏山の沢があふれる事がある為、隣接する事業所へ早めの避難を心掛けている。備蓄は事業所独自では行えていない。備蓄と緊急持ち出し書類、及び懸案の避難訓練後の振り返りについては今後の課題であると管理者は考えている。	備蓄や持ち出し書類の整備、また、避難訓練後の職員の振り返りの機会を持たれることを期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日頃からの個々の入居者とのコミュニケーションにより性格や能力を把握し自尊心を傷つけない様、安心して過ごして頂ける様な言葉かけに努めている。	以前、脱衣所の入り口にのれんをかけていたが、現在ははずしている。入浴時の脱衣は職員と利用者の1対1で行い、他の職員の出入りがないよう配慮している。利用者への呼びかけは、丁寧にさりげなく対応するよう気を付け、職員同士でも注意しあえるよう心がけている。	脱衣所が広いので、パーティション等を用意され、利用者が落ち着いて脱衣ができるよう配慮されてはかがか。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その時の状態により思いを理解し難い時がある為、表情や行動を観察しながら、自己決定が出来るような言葉かけに、努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の入居者のペースに合わせてながら職員都合にならない様な言葉かけに努めている。唄う・聴く等音楽を通じて楽しく過ごして頂ける様に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出の際、自身で衣服を選んでい抱ける様に支援しているが重度化により自身で選ぶ事が出来ない入居者が居られる。日頃から日常に於けるみだしなみに気をつけている。		
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節に相応したメニューを考え食べ易い工夫と共に美味しく彩りある食事提供が出来る様に努めている。又、入居者の能力に応じた調理や片付け等を手伝ってもらっている。	ユニットごとに考えた献立を職員が用意している。到来物の野菜や畑での収穫物などを活用し臨機応変に食事提供できている。時には、大きな器に料理を盛って好きなだけ取り分けてもらったり、前庭にテーブルを並べて食事するな、趣向を変えて楽しんでいる。利用者は、自分の箸、茶碗、湯飲みを持ち込んでおり、その他の食器は季節に合わせて職員が選んでいる。	

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41			○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	偏りのないメニューになる様に努めている。日頃から、個々の食事量、水分量を把握し無理のない様に摂取して頂ける様に努めている。又、入居者の状態に合わせてミキサー食、刻み食等に対応している。		
42			○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、言葉かけをしながら口腔ケアを行っている。うがいが困難な入居者は口内スポンジやケアウエットー等で口腔ケアを行っている。義歯の入居者の方は洗浄剤、又は水に浸している。		
43	(20)		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者一人一人の排泄状況を考慮し、トイレ誘導を行っている。又記録を取り時間で誘導している。夜間はポータブルトイレを利用されている方も居られる。	オムツの利用者が数名いる。ほとんどは立位の保持が可能なため、日常生活動作記録表や引継ぎ帳で個々の排泄パターンを把握し、さりげなく誘導することで、トイレでの排泄が出来ている。失敗してしまった場合でも、周囲に気付かれないように配慮しながら対応に努めている。	
44			○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝食時にヤクルトを提供している。又便秘気味の方には、牛乳やヨーグルトなども定期的に提供し、薬の必要な方には、便秘薬も服用している。		
45	(21)		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	午後1時30分頃から、行事以外の日はほぼ毎日入浴できるようにしている。体調不良の方以外は、なるべく一日おきに入浴して頂く様にしている。ご自分で着替えの用意をしてもらい、お風呂を楽しみにして頂いている。	全員がほぼ隔日の午後に入浴出来ている。湯加減は利用者の好みに合わせ、好みのシャンプーを用い、職員と1対1の会話を楽しみながらゆっくりと入浴を楽しんでいる。体調不良等で湯船に入れないときも、足湯やシャワー浴を楽しんでもらっている。	
46			○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各個人にあったベッドや、畳を敷いての布団で休まれる方、照明もその方の希望を聞いて、休んで頂いている。		

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各入居者の受診記録にて、薬に対しての用法、用量は把握している。受診記録は、職員が見てサインする様に努めている。受診時、薬が変更になった場合も、記録と同時に口頭での引継ぎを怠らずに把握するように心がけている。		
48	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食器洗いが出来る方、お盆拭きをしてもらう方、洗濯たたみをして頂く方等、日常生活の中で出来る事を、職員と一緒に増やしていき、その方のやりがいに繋がるよう支援している。		
49 (22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在は、併設特養の行事以外には、外出支援は出来ていない。お出かけがしたい。と言う声も出てきているので、職員、ご家族と連携を計り、実行できるようにしていきたい。	隣接事業所の主催する行事に参加したり、地域の八重桜の花見に出かけた。夜勤明けの職員と事業所横の山にワラビ採りに行ったり、地域の敬老会に参加している利用者もある。気候の良い時期には、事業所の前庭に椅子を並べて日光浴をしたり、畑の世話を楽しむこともある。今後はより計画的に、外出の機会を増やしたいと管理者は考えている。	
50	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭を預かっている入居者は1名居られる。その他の入居者については、特養からのお菓子販売等の時には、立替金にて、購入して頂いている。		
51	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や知人からの手紙やハガキが届いたら、本人に手渡して、読んで頂いている。自身で読めない方には、職員が側で読んで差し上げている。		
52 (23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内の玄関、壁面、リビング等に、季節感が感じられるような飾りや置物、季節の花等、取り入れるよう心掛けている。又、その時々に合わせて音楽を流したり、地元の景色が映ったDVDをかけたりと、地域の様子、季節感が感じられるよう心掛けている。	エレベーターホールは家族の撮った写真パネルや元利用者の絵などが少しだけ飾られ、品の良いギャラリーとなっている。廊下の壁面も控えめな季節の飾りついで、掃除も行き届いており開設以来の年月を感じさせない清潔な雰囲気になってきている。アイランド型のキッチンでは、元気な利用者が協力して、食後の片付けをしている。	

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53			○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	歌やゲームをしたりする時は、なるべく一体感を図れるよう、一つのテーブルに集まって頂き、皆で出来るようにしている。又、気の合った入居者同士、席の配置にも心配りしながら対応している。		
54	(24)		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者それぞれに応じた居室の雰囲気づくりに心掛けている。使い慣れた家具、イスやソファやベッドの配置、家族の写真、カレンダー、誕生カード等、生活感あふれる中、自身が落ち着いて過ごせるような居場所づくりに配慮している。	広い居室に、事業所が作り付けの戸棚と洗面台を準備している。利用者は入居前の暮らしを再現させて、畳を敷いたりベッドや家具を持ち込んでいる。大きな窓には障子があり、直射日光を遮り柔らかい光を室内に届けている。予備の車椅子や押し車を置いて、邪魔にならずに暮らせる広さが好ましい。	
55			○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内、入居者が歩行される場所には手すりを付けて、安全に歩行出来るようにしている。トイレやキッチンも、入居者からよく見えてわかりやすい場所にしてある。又、職員の事務所からも、視線内に入居者を確認できるように配慮している。		